



朝日放送グループホールディングス株式会社

2018

CSR 活動報告



だっ!



INDEX

Top Message 2
朝日放送グループCSR基本方針 3

1. 明日の大人たちへ...



●ABC子ども未来プロジェクト 4	●アナウンサーの活動について 6
・「はじめてのバースデー」 4	●夏の高校野球100回記念大会 7
・エビシー教室「ABC出前授業」 5	●スカイA 7
・エビシー教室「ABC社内授業」 5	

2. 明日の暮らしへ...



●災害・防災報道 8	・打ち水プロジェクト 11
・[エビシーが聞くシー! その1] 佐藤江里子 災害担当記者 8	・高石送信所 太陽光発電 11
●避難情報のエリア限定強制表示 9	・リサイクルの促進 11
●「ガラスの地球を救え」キャンペーン 10	・[エビシーが聞くシー! その2] エー・ビー・シー開発 12
・クリーンアップ活動 10	ハウジング関西営業部 上原 幸 リーダー
・「みんなの木」活動 10	

エビシーが案内するシー!

朝日放送グループ(ABC)の
キャラクターとして、
これからも頑張るシー!



ABCキャラクター
“エビシー”

- ABC本社前の堂島川近辺で目撃されるUMA(未確認動物)
- ABCのテレビ・ラジオの電波が好きで本社近辺に出現

3. 明日の文化へ...



●最近5年間の文化関連の 朝日放送テレビ番組作品 13	●「ABCラジオまつり」 「ABCラジオスプリングフェスタ」 16
●2018年度 放送作品 14	●ABCフード&スマイルフェス 16
●芸能・芸術文化の発信 15	●「福島バル」 「福島×福島 日本酒バル」 17
・第39回ABCお笑いグランプリ 15	●京都タワー「VRバンジー」 17
・上方落語をさく会 15	●「中之島まるごとフェスティバル」 (東日本大震災復興支援イベント) 18
・三代澤康司のドッキリ!ハッキリ! クラシックです! 15	●中之島なつまつり2018 18
●子どもたちの心を育む文化事業 15	●中之島ウエスト・冬ものがたり2018 18
・ミュージカル「ズボン船長」 15	
・道上洋三の 春休みファミリー・コンサート 15	

トピックス



●「おはよう朝日です39周年 あなたの町を盛り上げ隊」 19	●ピンクリボン スマイルウオーク神戸 20
・[エビシーが聞くシー! その3] 「おはよう朝日です」 津浪 祐一 プロデューサー 19	●エビシーの防災活動 20
●「TABLE FOR TWO」参加スタート 20	●ABCグループ会社紹介 21
●字幕・解説放送 20	●SDGsと朝日放送グループについて 22

この活動報告は、朝日放送グループホールディングス株式会社と朝日放送グループ各社の番組やイベントなど様々な取り組みから、CSR視点での活動例を取り上げてまとめ、出来る限り多くの皆さまにご理解頂くように編集したものです。なお、ご紹介した活動例は2018年度(2018年4月1日~2019年3月31日)のものであります。

Top
Message

あすおとな 「明日の大人たちへ…」

明日のより良い社会のために、いま子どもたちへ出来ること

「2025年大阪・関西万博」の開催が決定しました。サブテーマのひとつに「持続可能な社会・経済システム」を掲げ、国連が決めた持続可能な開発目標 (SDGs) 実現の為に取り組みを促すなど、社会課題の解決を目指す内容が注目されています。

同時に、近年、社会の様々な場面でもCSRに関連することがより語られるようになってきているのは、企業姿勢やその存在意義に対して、皆さまからの関心や期待がより大きくなっていることの証と受け止めており、企業のトップとして、大変に身が引き締まる思いがしています。

さて、朝日放送グループが認定放送持株会社体制に移行して一年が経ちます。

当社グループは、経営理念を「変化に対応しながら進化を続け、強力な創造集団として社会の発展に寄与する」としています。その内容は、「変化」と「対応」、「進化」と「創造」、そしてその先には「社会の発展に寄与する」との言葉にあるように、CSRの根本理念に通じたものとなっています。

そこで「ホールディングス元年」の大きな節目に合わせ、今一度この「経営理念」を見つめ、改めて「グループCSR方針」を策定することにしました。

方針改定のプロセスでは、「本来の私たちABCグループの事業はCSRそのもの」との基本的考え方に立って、グループ各社の番組やイベントなど本来の様々な取り組みを大切にしました。中でも「子ども」「環境と暮らし」「文化」の3つの要素を特に重要と考え、「明日の大人たちへ…—明日(あす)のより良い社会のために、いま子どもたちへ出来ること—」のキャッチメッセージに込めています。

このメッセージを、様々な番組や取り組みを通して多くのステークホルダーの皆さまにお届けすることで、社会課題の解決に少しでも繋がっていけば幸いです。この事が、私たちの本来の事業を通じて出来る社会的活動であり、社会の一員としての責任だと考えています。

今後も、朝日放送グループは、様々なコンテンツを通じて明日の生活をより幸せで豊かにするため、進化を続けて参ります。

今後も、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

朝日放送グループホールディングス株式会社
代表取締役社長

おきなか すすむ
沖中 進



朝日放送グループ 経営理念

変化に対応しながら
進化を続け、
強力な創造集団として
社会の発展に寄与する

朝日放送グループCSRの基本的考え方について

「朝日放送グループCSR方針」は、「ABCグループの事業は『CSRそのもの』」との観点の下、これまで当社グループの各社が取り組んできた様々な事業活動の中にあるCSR事例を再確認し、さらに発展させていこうというものです。当社グループで働く一人ひとりが、それぞれの事業活動を見つめ直し、より一層自らの業務に自信と誇りを持って取り組むことが、当社グループの持続的成長と社会への貢献に結びついていくと考えています。

CSR推進体制について

「朝日放送グループCSR方針」改定を受けて、2018年秋、グループの社会的責任を果たし更なる企業価値向上に寄与することを目的として、CSR担当取締役を議長とする「朝日放送グループ戦略CSR会議」を設置しました。この会議はグループCSR方針に基づいてグループのCSR事業をさらに推進するためのもので、同時にグループ各社各現場からアイデアを募り様々な取り組みや展開を行うための「CSRワーキンググループ会議」も設置しました。これら2つのグループ会議によって年度ごとに当グループが重点的に取り組む事項（年度重点目標）や、具体的展開（アクションプラン）の検討・実施を進めていきます。



CSR方針と行動指針について

私たちは、グループCSR方針の改定において、ABCグループにあるCSR視点をもった番組やイベントほか各取り組みの事例を再確認し、まとめる作業を行いました。大切にしたのは、ABCと社会にとっての両方の課題を満たし、かつ視聴者、リスナー、イベント来場者の皆さまなど全てのステークホルダーから求められる要素は一体何だろうか？という事でした。浮かび上がったキーワードは「子ども」「環境と暮らし」「文化」。

今後、グループのCSRとして優先的に取り組む重要課題（マテリアリティ）をこの3項目に絞り込み、そこに寄せる考えを【朝日放送グループCSR基本方針】及び【行動指針】としてまとめました。

朝日放送グループCSR基本方針

私たち朝日放送グループは、様々なコンテンツを通じて明日の生活をより幸せで豊かにするため、進化を続けます

行動指針

明日の
大人たちへ...

メディアとしての責任を果たし、
子どもたちへより良い社会を
手渡します

明日の
暮らしへ...

地球環境と人の営みを大切にし、
命と暮らしを守る情報を
届けます

明日の
文化へ...

歴史ある関西の文化を支え、
さらに豊かな文化を
育み続けます

上記 行動指針 を推し進めるために、キャッチコピーとして以下に表しました。

あす おとな
「明日の大人たちへ...」

..... 明日のより良い社会のために、いま子どもたちへ出来ること

1. 明日の 大人たちへ...



メディアとしての責任を果たし、
子どもたちへより良い社会を
手渡します

放送番組やイベントなど朝日放送グループの
様々なコンテンツを通じて、子どもたちが将来に
希望を持てる社会をめざします。

ニュースやドキュメンタリーをはじめ、
各種放送番組を通じて、社会が抱える様々な
課題についての事象や知見をわかりやすく伝えます。
とりわけ、少子高齢化や情報社会の進展・
複雑化など子どもたちを取り巻く
環境の変化に対応する活動に積極的に
取り組みます。



6



ABC子ども未来プロジェクト

since
2007

ABC 子ども未来プロジェクト

「ABC子ども未来宣言」

朝日放送グループでは、全社横断的な組織として、「子ども未来プロジェクト」を2007年1月に立ち上げました。「いじめ」「虐待」「自殺」「犯罪の若年化」など、子どもを巡る環境は厳しいものがあります。子どもたちがさらされている危機は、私たちの未来が摘み取られていることと同じであり、そんな子どもたちが将来に対して、明るい希望をもってもらうため、朝日放送グループは、番組やイベントを通して、視聴者の皆さまと共に考えるコンテンツを発信し続けていきます。



「はじめてのバースデー」

毎週土曜 午後5時55分～6時 放送

「はじめてのバースデー」は、2017年秋からABCテレビで放送しているミニ番組です。子どもが生まれ、子育てが始まったその日から、親の生活は一変。自分の時間は皆無で、小さな命の世話に明け暮れ、くたくたになる毎日が始まります。でもそんな毎日は、実はもう二度と繰り返せないかけがえのないものです。そして気がつけば1年が経ち、我が子は

1歳の誕生日を迎えます。それはお父さんお母さんにとっても、親になって1年経った「誕生日」であります。そんな時期を迎えているお父さんお母さんに、子育ての「実感」「喜び」「楽しさ」「わが子への思い」を語って頂く番組で、番組開始以来、大勢の親子に登場していただいています。



武田和歌子アナウンサー
(ナレーション)



1. 明日の大人たちへ...

■「エビシー教室～出前授業」

報道・番組制作・技術・アナウンスなど、放送の現場での仕事を子どもたちに体験してもらうほか、「キャリア教育」や「メディア・リテラシー教育」など学校教育現場と連携した内容の充実に努めています。

■「エビシー教室～社内授業」

本社屋の設備やスタジオ、番組制作の様態などを見学する機会を設け、放送やグループ事業への理解を促進します。対象を小・中学生のみならず、生涯学習や社会人教育など様々な年齢層に広げ、視聴者・リスナー・ユーザーとふれあう機会を増やしています。

エビシー教室

ABC出前授業

エビシー教室「ABC出前授業」

当社は、2011年から、エリア内(近畿2府4県)の小学校を、現場の第一線で働くディレクター、アナウンサー、記者、カメラマン等が訪問して「ABC出前授業」を行ってきましたが、2015年からは対象を、メディアの授業が始まる小学校高学年だけでなく、中学、高校、大学、専門学校、市民講座などにも広げました。

授業では、番組作りや取材現場の裏側をお話するだけでなく、持参した本物の放送用カメラ等に実際に触れてもらってカメラマンやスイッチャーの体験をしたり、ニュースキャスターやフロアディレクターを体験したり、より身近に放送局を体感できる機会となっています。できるだけ応募先のご要望に応じて授業内容をカスタマイズし、その模様を収録してテレビやラジオで放送することもあります。参加者からは「野球中継の裏側がわかり、その深みを感じた。これからはスポーツ中継を見る目が

変わる。」「報道記者は視聴者のことを考え、人々に最新情報を届ける大変な仕事ということがわかった。」「大切にしていることは『命を守る放送』と聞いたときはすごいお仕事だと思った。私もそんな命を守る仕事がしたいと思った。」などの声が寄せられました。

エビシー教室「ABC出前授業」は、2018年度は14回、過去8年間で通算158回実施しました。



エビシー教室

ABC社内授業

エビシー教室「ABC社内授業」

2017年度からは、新たに「ABC社内授業」もはじめました。対象は「ABC出前授業」同様、原則として、メディアの授業が始まる小学校高学年ですが、中学、高校、大学、専門学校、市民講座などからの応募も可能です。

社内授業では、普段は入れない放送局の中でスタジオなどを実際に見学しながら、放送の裏側を学んでいただけます。放送局の災害対策を知りたいというグループには地下の耐震ピットをご案内したり、イベント制作を学んでいる専門学校の学生には現場で美術セットを見ながらご説明するなど、できるだけ応募先のご要望に応じて授業内容を組み立てています。

また、当社の社屋を現在の大阪市福島区に移した2008年から、毎年の夏休みに小中学生を対象とした社屋見学会を開催してきましたが、2018年からは「小中学生!夏休みABC社内授業」と題し、夏休みスペシャル授業を開催しました。

今回は『おはよう朝日です』の本物のセットを使用しながら、出演者やスタッフと一緒に番組作りを体験しました。レギュラー出演者の岩本計介アナウンサー、川添佳穂アナウンサー、気象予報士の正木明さん、エレクトーンの赤崎夏実さんが、目の



前で実際にお手本を見せてくれた後、直々に参加者にレクチャーを行い、司会、中継リポーター、気象予報士、エレクトーン、カメラマン、フロアディレクター、それぞれの役割を担った子どもたちが、皆で力を合わせて番組を作り上げました。できあがった番組の上映会をしましたが、いつも見ている番組の中に登場した自分の姿に大喜びの様子でした。

参加者からは「スタジオの中に、スタッフの方がたくさんいるのにびっくりした。」「スタジオの照明の工夫や、いろいろな機材を見せてもらった。」「出演者の皆さんがとても気さくだった。」などの声が寄せられました。

エビシー教室「ABC社内授業」は、2018年度は13回、過去2年間で通算25回、実施しました。

アナウンサーの活動について

ABCのアナウンサーは、長きに渡り、地域の社会福祉施設や関連イベントなどで、多くは子ども達に対して絵本の朗読や実況の実演、司会進行のお手伝いなど様々な活動を行っています。特に毎年1月と2月の「大阪市児童福祉施設連盟」の活動への支援は、活動開始当初より行っています。

18年度の活動の様子



毎年1月に行われる「新春こども大会」は、大阪市児童福祉施設連盟の各施設の子どもたちが、創作ダンスや劇、歌などを練習し、その成果を披露する文化祭的な楽しいイベントで、アナウンサーは司会進行役のお手伝いをさせて頂いています。



また2月には、大阪市内の児童福祉施設を訪問、子ども達との触れ合いも行なっています。大きく元気な声を出しながらの「長音」競争、早口言葉遊び、子ども達のクリスマス会や野球大会などの活動をニュース風や実況風にお伝えするなど、楽しいひと時でした。



「今年も・・・！好奇心旺盛で元気いっぱい子どもたちに会ってきました。アナウンサーの仕事について体験してもらおうと、早口言葉や発声トレーニングにみんなで挑戦！大きな声で『はい！』と言いながら積極的に手を挙げてくれる子どもたちの姿に思わず笑顔になり、ちょっぴり恥ずかしがりながらも難しい課題にチャレンジする姿に心をぎゅっと掴まれ・・・あつという間の1時間でした！」

津田 理帆アナ

「まず挨拶して、明るい笑顔と元気な声を聞いて…そして周りのスタッフの皆さんの笑顔のあたたかいこと！元気で勇気と優しさをもらいました。いつも一緒にはられないし、世代も立場も違うけど、がんばって生きるのは一緒。みんなで前に進んで行ければいいなあと思いました。」

高野 純一アナ

各アナの声

「アナウンス部は以前から社会貢献活動をしてきました。わずかな貢献しかできていないとはいえ、部員1人1人が愚直にこれまででできたことへの証と思い、感謝状を拝受しました。感謝の気持ちを忘れずに今後も謙虚に続けていきたいです。」

柴田 博アナ



※なお、2018年12月14日、「大阪市児童福祉施設連盟」の創立60周年記念式典において、総合編成局アナウンス部は、長年にわたる連盟への支援活動に対し感謝状を授与されました。

アナウンサーの活動で大事にしていること

- ✓ 活動を「持続する」こと
- ✓ アナウンス技術による表現やコミュニケーション、言葉や放送の話などを中心とした活動を行うこと
- ✓ 広くは関西エリア全域から本社所在地大阪市福島区まで、各地元地域への貢献は積極的に行い、地域エリアとの親和を図り、地域エリアへのお手伝いを行うこと



未来あるすべての若者たちを応援しています



夏の高校野球100回記念大会

2018年は、全国高等学校野球選手権大会が100回を迎える記念すべき節目の年となりました。全国大会には史上最多の56の代表校が出場。8/5(日)に開幕し、例年より2日長い17日間の戦いが繰り広げられました。

ABCは1952年より夏の全国高校野球大会の全試合を甲子園球場から実況中継しています。

2018年も例年どおり開会式から決勝戦までを地上波で生中継。地方大会については、『速報! 甲子園への道』で代表校決定までの各地の決勝戦を中心にお伝えし、『熱闘甲子園』では、今年も球児たちの一球にかける熱い想い、感動を余すところなく放送しました。

また、「2018 ABC夏の高校野球応援ソング」は嵐の歌う「夏疾風」で、嵐の相葉雅紀さんが“熱闘! 高校野球100回スペシャルナビゲーター”を務めました。

本大会直前の8/4(土)には、『熱闘甲子園直前SP 相葉雅紀&ゴジラ松井も感涙!? 号泣甲子園』を放送。『熱闘甲子園』が伝えてきた球児たちの数々の「涙」の中から、心を揺さぶられる奇跡のドラマを厳選して紹介。MCの相葉雅紀さんと共に、これまでに高校野球が生んだ“号泣ストーリー”の数々を振り返りました。

さらに、朝日新聞社と共同で運営する高校野球総合オンラインサービス「バーチャル高校野球」



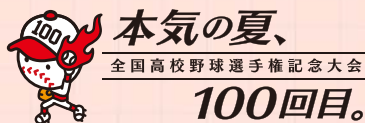
では、前年260試合だった地方大会のライブ配信を大幅に増やし、56地区すべての決勝戦を含めた694試合をお届けしました。また、特集企画の動画なども含めたアーカイブ配信も行っています。当社では夏の高校野球シーズンには、グループ社員・スタッフが総出、一丸となり、選手をはじめとする、未来あるすべての若者たちを応援しています。今後もひと夏の熱い戦いをくまなく皆様にお届けしていきます。

CS放送のスポーツチャンネル スカイA

朝日放送グループのCSテレビ局、スカイAは、阪神タイガースの試合・キャンプ生中継、ドラフト会議、学生野球、ゴルフ、サッカー、卓球、バスケ、ボウリング、クライミングなどスポーツ中継が充実しています。

さらに「全日本マーチングコンテスト」「日本高校ダンス部選手権」「バトントワリング全国大会」「全日本新体操選手権」「チアリーディング全日本学生選手権大会」など、学生が競う魅力的なジャンルも、積極的に放送しています。

地上波テレビでは取り上げられない学生競技の魅力を紹介したり、女子プロゴルフの登壇門「ステップアップツアー」などを積極的に放送して行くことで、頑張る学生達と次代を担う才能を応援していきます。



速報! 甲子園への道



熱闘甲子園



熱闘甲子園直前SP 相葉雅紀&ゴジラ松井も感涙!? 号泣甲子園



スポーツ部
よこた あり
横田 瑠衣 ディレクター

「夢が叶いました！」

高校1年生の時、地元代表の野球部のファンになり、テレビで応援しているうちに、自分もABCで高校野球を中継したいと考えるようになりました。入社3年目、記念すべき「100回記念大会」で初めて、高校野球の中継車ディレクターを担当しました。ずっと思い描いていた夢が1つ叶いました。スポーツ部の先輩たちの、親身な指導のおかげです。



2. 明日の暮らしへ...

地球環境と人の営みを大切にし、
命と暮らしを守る情報を
届けます

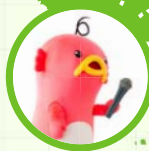
地球環境と人の営みを大切に、
命と暮らしを守る企業グループを目指します。
とりわけ、頻発するあらゆる自然災害に備えて、
災害発生時の報道を迅速に行い、
防災・減災に役立つ情報伝達を適切に
実施するとともに、過去の災害などの
知見を活用し、啓発活動にも
取り組みます。

災害・防災報道



エビシーが
聞くシー!

その1



さとう えりこ
佐藤 江里子 災害担当記者

命を守る放送を心がけていきたい

私はその過程を取材させてもらったのですが、何度も何度も足を運ぶうち、農家のご主人が「これまでマスコミにあまり良いイメージを持っていなかったけど、今回、自分たちの現状をこんなに丁寧に取材して伝えてくれて、本当に感謝しているんです」と話してくれたのです。被災されて大変な思いをしている方にそのような言葉をかけて頂き、大変嬉しかったのを覚えています。

阪神・淡路大震災から25年に向けて

2019年1月17日には夕方ニュース番組「キャスト」で、「慰霊と復興のモニュメント～名前を見つめる理由～」という特集を放送しました。神戸市の東遊園地に「慰霊と復興のモニュメント」という、震災で亡くなった方のお名前が掲示されている場所があります。そこに、1年間、毎月17日に通いました。すると、いつ行ってもどなたかがいらっしやるのです。ご遺族の方に限らず、ふらりと立ち寄った方、亡くなった友人の名前を探しに来た方…皆さんからそれぞれの思いを伺いました。震災から時間が経っても、この場所を心のよりどころにしている方が大勢いらっしやることを初めて知りましたし、様々な事を教わりました。



まもなく阪神・淡路大震災から25年を迎えます。ABCは関西の被災局として、震災を伝え続ける使命があると感じています。そして、これから起こる災害に対してお一人おひとりの命を守ることに繋がる放送を心がけていきたいです。災害は、経験していない方にとって実感づらいものだと思います。普段、災害や防災をあまり意識していない皆さんの心にも届き、身近に考えていただけるようお伝えするのが目標です。

いま入社3年目で、神戸市で生まれ育ちました。阪神・淡路大震災の時は生後4カ月でした。いつも寝かされていたベビーベッドの上にたんすが倒れてきて大破したそうですが、その日に限って私は母と同じ布団で寝ていたから奇跡的に助かったというのです。子どもの頃から、自分の年齢イコール「あの震災から何年だ…」と意識してきました。生かしてもらった自分に何か出来ることはないかと、いつしか災害や防災に関する報道の仕事をしてみたいと思うようになりました。願いが叶い、現在は災害担当記者として取材を行っています。

2018年は大阪北部地震、西日本豪雨、8月、9月の台風など次々と災害に見舞われた年でした。現場からの中継や発災直後の取材を初めて経験しました。

特に記憶に残っているのは、大変な被害をもたらした台風21号です。大阪府富田林市の、ビニールハウスが壊滅的な被害を受けた農家の方を訪ねました。その方は同じような被害に遭った皆さんの署名を集めて大阪府に提出するなど、なんとか立て直しを図ろうとしていました。



ニュース情報番組「キャスト」

「忙しい夕方にやさしいニュース」を。関西のニュースを中心に、毎日の暮らしに役立つ情報をお伝えしています。



毎週月曜～金曜 夕方3時50分～7時 放送

キャスター：上田剛彦・塚本麻里衣・古川昌希
リポーター：澤田有也佳・津田理帆
(いずれもABCテレビアナウンサー)

国内
唯一

郵便番号ごとにきめ細やかに災害情報を表示する 「避難情報のエリア限定強制表示」 朝日放送グループが独自に開発

朝日放送テレビでは、テレビの前の皆さんの命を守るため、2017年の秋から、テレビに登録した郵便番号を使って、その地域に必要な災害情報に絞り込み、速やかにテレビ画面に表示する運用を始めています。これは、総務省が推進する「アラート」という情報共有システムを活用し、朝日放送グループが独自に開発したもので、国内の放送局で唯一の「先進的な取り組み」です。

お住いの自治体に、避難勧告や避難指示・特別警報・土砂災害警戒情報、近くを流れる国交省指定河川に洪水情報（はん濫警戒情報以上）が発表された時には、視聴者の皆さんが特別なリモコン操作をしなくても、テレビ画面上に情報が表示される（一部時間帯を除く）というものです。表示されている時にリモコンの赤ボタン（詳しく）を押すと、データ放送の「警報・気象」の詳細ページに遷移し、避難の対象となっている具体的な町丁目などを確認できます。また情報が必要ない時は、リモコンの青いボタン（閉じる）で表示を消すこともできます。

災害が多発した2018年は、7月の西日本豪雨や9月の台風21号など、8つの事象で強制表示を実

施しました。特に西日本豪雨では、雨のピークとなった7月6日に約400万台のテレビに強制表示を行い、そのうち約3割のテレビで、視聴者に赤ボタン（詳しく）を押して頂いたことがわかりました。この表示を見たことをきっかけに、約120万人の視聴者が、避難に関する詳しい情報を取得したということになります。また、突風や高潮の被害をもたらした台風21号の際も、約120万台のテレビに、その地域に関する情報をいち早く表示しました。（視聴記録からの推計）



■台風21号時の強制表示

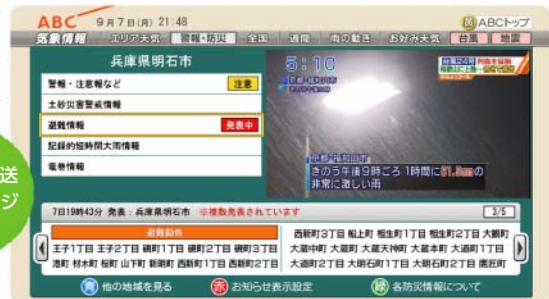
朝日放送テレビの放送エリアには230の自治体があります。災害時に多くの自治体から一斉に情報が発表されると、視聴者は自分に関係するもの



■強制表示画面のイメージ



データ放送
詳細ページ



を見つけ出すことが難しくなります。いつテレビをつけても自分に関係する情報だけを確認できるこの表示方式は、「避難情報を“自分ごと”と捉えるために効果的である」として、他の放送局の視察を受けたり、新聞紙面に紹介されるなど、多方面から注目を集めています。また、ホームページを開設して広くこの取り組みを周知しています。（<https://www.asahi.co.jp/kyoseihyoji/>）これまでテレビの災害情報は、いわば「送りっぱな

し」の状態だったため、その情報を必要とする視聴者にどの程度情報を受け取っていただけたか、放送局側ではわかりませんでした。この取り組みによって、必要な場所に、必要な時に、より確実に災害情報を伝えることができるようになりました。こうした取り組みをより高度化し、広めていくことによって、視聴者の皆様や株主の方々をはじめとする、全てのステークホルダーの皆様にご信頼して頂ける放送局として、企業価値を高めてまいります。



「ガラスの地球を救え」キャンペーン

since
2000



ガラスの地球を救え

「ガラスの地球を救え」

1989年に他界した天才マンガ家・手塚治虫さんが最後に残したメッセージです。

「これ以上人間の手によって、大切な空気や緑、そして青い海を汚してはいけない。次世代を担う子どもたちの夢を守らなければいけない」という思いが込められています。朝日放送グループは、2000年からこのメッセージを元に「ガラスの地球を救え」キャンペーンをスタートしました。今後も、環境保全の継続的実現を図り、地球にやさしい企業グループを目指しています。

ゴミ削減や廃棄物のリサイクル促進、ラジオ送信所における太陽光発電事業を継続し、地球環境保護に貢献します。また、自然・みどりに親しむイベント「みんなの木」などを展開、自然環境保護についての啓発活動を進めていきます。

クリーンアップ活動

2018年4月20日(第10回)と12月12日(第11回)に、大阪の福島・中之島エリアの清掃活動を行いました。当社が参加している「中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会」が主催し、近隣企業、住民の皆さまにもご参加いただきました。

参加人数は、春は41団体325名、冬は41団体405名と、回を重ねるごとに増加しています。

いつも美しく安全で魅力的な街であるために、地域の皆様とともに活動しています。



「みんなの木」活動

「ガラスの地球を救え」キャンペーンの一環として、2007年にスタートした「みんなの木」活動は、次の世代を担う子どもたちに、自然の大切さ、命の尊さを知ってもらい、未来の環境について考えてもらう機会として誕生しました。2012年までは、小学校や幼稚園での自然環境の特別授業や記念の植樹体験を中心に行なってきましたが、2013年春からは自然公園や里山などに場所を移して、植物の観察会や工作イベントなど身近な自然環境に触れる催しを行っています。

2018年度は、「ABCラジオまつり(2018年11月18日(日))」、「ABCラジオスプリングフェスタ(2019年3月10日(日))」に合わせて、1970年に開催された大阪万博終了後に整備された万博記念公園にて、自然観察会を実施しました。秋の部で



は各回60名(合計180名)、春の部では各回80名(合計240名)の参加者が、森林インストラクターの案内のもと、ABCラジオのパーソナリティと一緒に、緑あふれる公園内を探索しました。特に、秋の部は、大型台風が近畿を直撃した爪痕が残り、巨木がなぎ倒されていて、自然の脅威を目の当たりにする機会となりました。また、各パーソナリティは自分の担当番組で活動の様様をレポートしました。春の部では、「明日の大人たちへ...」(朝日放送グループCSRキャッチコピー)をテーマに、次世代に託すメッセージを大きな「みんなの木」パネルに貼付していくコーナーを新設。自然や命の大切さを訴えるメッセージが集まりました。「みんなの木」の活動の実施数は、通算55回となりました。



2. 明日の暮らしへ...

打ち水プロジェクト

「中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会」※が主催する中之島ウエスト「打ち水」プロジェクト。川に囲まれ、水都大阪を象徴する中之島、福島で河川水などを利用し、ヒートアイランド現象の緩和を目指すとともに、街を訪れる人へのおもてなしの心を込めて、2013年より活動を行っています。2018年は7月27日に開催し、4つの会場で45団体750名が「打ち水」に参加しました。



※ 中之島西エリアの周辺企業が集まり、エリアの個性化と魅力向上を目指した協働プロモーションを行う情報連絡会。

高石送信所 太陽光発電



2013年11月にスタートした大阪府高石市の高石ラジオ送信所の太陽光発電事業は、6年目に入りました。約2万9千平方メートルの敷地に約1万枚の太陽光パネルを設置しており、出力は1990kWで、発電した電気を関西電力に購入してもらっています。クリーンな電力を創出することを通じて、環境に配慮し、地球にやさしい放送局を目指しています。

参考
2018年
5月実績

太陽光発電電力
345,721kwh

現在のABC本社の使用電力
1,044,586kwh

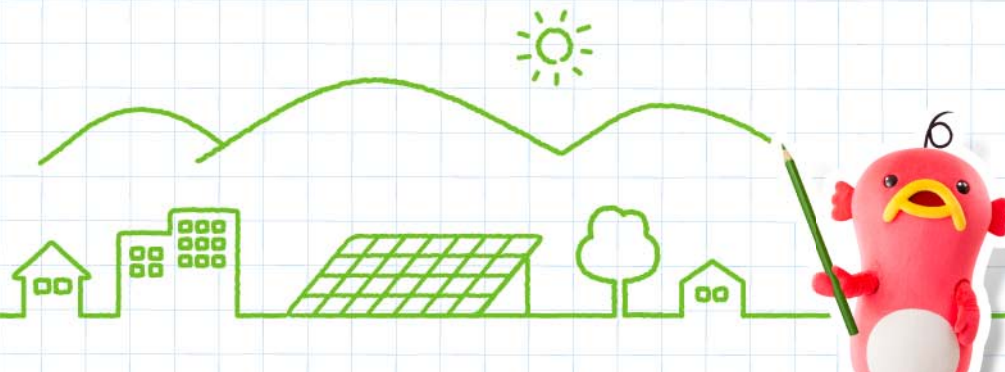
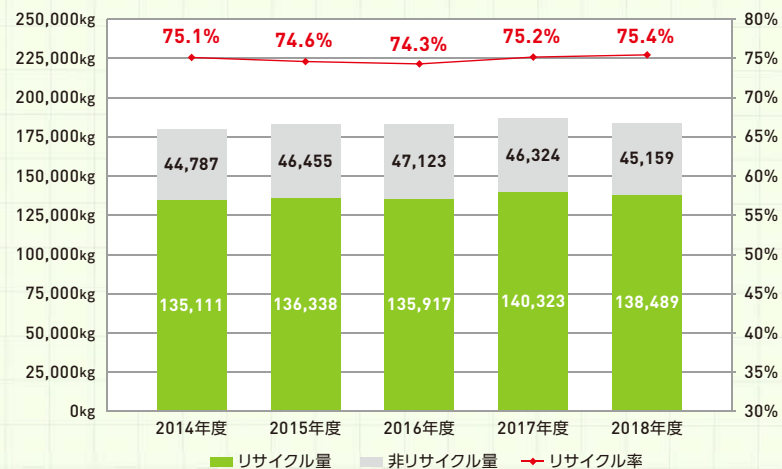
・朝日放送グループホールディングス
・朝日放送テレビ本社
・朝日放送ラジオ本社

➡ 約**33.1%**を高石送電所の太陽光発電でまかなった計算です。

リサイクルの促進

社屋全体(ABC本社・アネックスビル)で、廃棄物のリサイクル促進に取り組んでいます。過去5年間(2014~2018年度)のリサイクル率は70%超えを維持しており、「廃棄物の減量推進、適正処理を継続的に実施している」として、2015年度には大阪市環境局長表彰を受けています。また経費削減の観点からも、印刷物の適切な発注管理とコピー用紙の使用量の抑制にも取り組んでいます。

社屋全体 廃棄量 (アネックスビル含む。外構除く。) 年度別(通期) (2014年度~2018年度)



より豊かで安心・快適な暮らしの提案を



1966年、大阪市淀川区(現北区)に『ABCモダン住宅展』がオープンしました。これは日本で初めての総合住宅展示場(以下、「住宅展示場」という)となり、当時大きな反響を呼びました。そして現在は、「ABCハウジング」というブランド名で、近畿圏最大級である千里住宅公園を始めとして、近畿圏・首都圏の計23カ所に住宅展示場を展開し、良質な戸建住宅の啓蒙普及と、安心安全な住まいづくりの提案を続けています。

エビシーが
聞くシー!

その2

エー・ビー・シー開発
ハウジング関西営業部

うえはら こう
上原 幸 リーダー

に聞いたシ。

住宅展示場は「暮らし」全体に出会える場所

入社10年目です。ハウスメーカーとの出展調整や施設管理など様々な業務を経て、現在は住宅展示場への集客のためのPRチームに所属し、主に広告物や販促物の制作を担当しています。

現在近畿圏のABCハウジングは東は三重県の名張から、西は兵庫県加古川まで16カ所あり、近畿圏においてはシェアNo.1となっています。住宅展示場の数としても、歴史の長さにおいても、ABCハウジングは常にトップを走っている意識を持って仕事をしています。来場促進のPRに際しては、会場やエリアによってそれぞれの特色がありますので、それを捉えたイベントや広告媒体の選定・情報発信を行うこと、それから、お客様に対してとにかく分かりやすく内容を伝えていくことを心がけています。また、住宅展示場に足を運んで下さったお客様がモデルホームの見学やイベント・セミナーに参加することで、住まいについて何か気づき



や発見を得ることができる場所になればと思います。また、住宅購入を検討している方にだけ情報を発信するのではなく、もっと幅広い層の方に住宅への「夢、憧れ」を持ってもらうため、「住まい」のみならず「暮らし」をテーマに、多種多様なイベントやキャンペーンを通して、より豊かで安心・快適な暮らしについて提案していきたいと考えています。

より多様化するニーズ。 「家」を愉しんでいただきたい

数年前より「マイホーム事例集」の制作を始めました。ABCハウジングで成約されたお客様のお宅に我々が伺い、家を建てるまでのエピソードや住んだ感想などを聞き取りまとめて冊子やWEBコラムにします。これから家を建てたいという方に向けて、家づくりのリアルな体験やデータが届くように作成しています。「ABCハウジングで色々な家を見て、実際に

触れることが出来て良かった」などの声を直接聞くことができ、我々も大変嬉しく、勉強にもなります。“これから子どもが生まれるので家を検討している”というご夫婦や、ご主人が実際に災害現場で救助活動をされており、その経験から“家族を守れるとにかく強い家が良い”と希望されるご家族など、本当に様々な方がいらっしゃいます。以前から耐震、防災、省エネというテーマは有りましたが、自然災害が頻発する中、それらに特に関心が高まってきたように思います。やはり家づくりにおいて「安心」はひとつの大きなキーワードです。特に若い世代は、家を建てた経験の無い方がほとんどなので、そのような皆さんが何を基準に住まいを検討したら良いのかヒントになるような、分かりやすい広告紙面や冊子、ホームページとなるよう心がけています。部内には若手のスタッフも多いので、「自分たち世代が読んで分かるように」という視点を常に持つようにしています。



また、ここ最近の動向として、“このような家が流行”というのはあまり無く、個々のライフスタイルや趣味に合わせて求める家のイメージはさらに多様化し、それぞれのニーズに合ったもののご提案が必要ではないかと感じます。

そこで、2018年にオープンした「西宮・酒蔵通り住宅公園」は、会場のテーマを「家を愉しむ」として、それぞれ自分好みの空間づくりを愉しんで頂いたり、自分に合った暮らしがイメージ出来るような住宅展示場となっています。

次世代へつなぐために、何か新しいことを

当社の10年ビジョンに、『自由闊達な社風を尊重し、チャレンジ精神を大切にすること』という言葉が有りますが、働く上でそのような社風を感じることはあります。いま部内で「次世代戦略委員会」というプロジェクトがスタートしています。20代から30代前半の若い世代が中心となって集まり、次の世代に対して住まいや暮らしについてどう発信していくか、真剣に議論しています。ハウジング事業のさらなる成長はもちろんのこと、『全く新しいことを考える、やってみる』を実行し、新しい価値を生み出していければと考えています。



3. 明日の文化へ...

歴史ある関西の文化を支え、 さらに豊かな文化を 育み続けます

放送番組やイベントなど朝日放送グループの
様々なコンテンツを通じ、
有形無形の文化財についての情報を
国の内外問わず広く伝えることで、
歴史ある関西の文化を支える
活動をしています。

朝日放送テレビでは、創業以来、正倉院をはじめ歴史ある関西の文化財を取材し、発信し続けています。代表的なものとしては、1980年に「創立30周年特番」として鑑真和上坐像の中国への里帰りを密着取材し、最新技術を使い中国から衛星中継で日本にその様子を伝えました。1994年からは「歴史街道～ロマンへの扉～」の放送を開始。近畿2府4県、および三重県、福井県の文化財

にスポットをあて、毎週月曜日から金曜日に5分番組として放送しました。近年では、正倉院正倉の解体修理を独占密着取材し2014年に放送。また同年、平等院鳳凰堂の平成の大修理に密着した特番も放送しています。さらに2018年には、興福寺で300年ぶりに蘇った中金堂の再建特番を放送するなど、歴史ある関西の文化の発信につとめています。

最近5年間の文化関連の朝日放送テレビ番組作品

- | | | |
|--------|-----------------------------|-------------|
| 2014年度 | ●「刻まれた歴史 ～正倉院密着1860日～」 | 2014年11月3日 |
| | ●「金色の翼広げて ～平等院は浄土の輝き～」 | 2014年11月24日 |
| 2015年度 | ●「草原に目覚めた壁画を追い～モンゴル地下古墳の謎～」 | 2015年11月3日 |
| | ●「聖地・上賀茂神社 ～永遠の生まれるところ～」 | 2015年11月23日 |
| 2016年度 | ●「生誕300年若沖～祈りの絵師～」 | 2016年9月22日 |
| 2017年度 | ●「日本人と石の物語～voice of stone～」 | 2017年11月3日 |
| 2018年度 | ●「日本人とお茶の物語～おもてなしの誕生～」 | 2018年7月16日 |
| | ●「蘇る天平の風 興福寺中金堂 300年ぶりの復元～」 | 2018年11月23日 |

2018年度 放送作品



案内人：モーリー・ロバートソン
ナレーション：澤田 有也佳アナウンサー

「日本人とお茶の物語～おもてなしの誕生～」

7月16日(海の日) 午前9:55～10:53 放送

「日本人とは?」

日本人のアイデンティティーを探る一つの方法として、前年の「日本人と石の関係」に続き「日本人とお茶の関係」を探りました。

2013年9月、IOC総会で2020年東京オリンピック開催が決定。滝川クリステルさんの言葉「お・も・て・な・し」は日本が世界に誇れる文化です。それは日本人がお茶を飲む習慣から始まったと言われます。中国から伝わった「お茶」は日本

で独自の進化を遂げ「茶の湯」が大成、それがヨーロッパ人に深い憧憬を抱かせ、世界を動かすことになりました。そんな「お茶」と「日本人」の関係を「日本から世界へ」さらに「天下人から現代人まで」数々ある「物語」の中で探っています。今回、家元の代替わりが行われた茶道表千家、そして大徳寺、建仁寺とお茶に深く関わるいずれも関西の3つの関係先が取材を快諾して頂き、この番組が出来上がりました。



案内人：笑い飯・哲夫(奈良観光大使)
ナレーション：上田 剛彦アナウンサー

「蘇る天平の風 ～興福寺中金堂 300年ぶりの復元～」

11月23日(勤労感謝の日) 午前9:55～10:53 放送

2009年に開催された「国宝 阿修羅展」は94万人以上が入場する国内新記録を樹立。

この「阿修羅像」は奈良・興福寺の所蔵です。阿修羅像を始め、わが国仏教美術の殿堂とも言える興福寺は300年以上も一部が欠けた状況でした。それが江戸時代の大火に遭った中金堂です。

興福寺は150年前に壊滅的な打撃を受けた廃仏毀釈など、苦難を乗り越え、

301年ぶりに中金堂を再建します。中金堂は、平城京とともに歩んできた天平時代を代表する建物ですが、7度焼失。今回の再建で8度目の復元となりました。

なぜ今、中金堂を復元させたのか。再建にかける興福寺の人々の思いを広く伝えます。



芸能・芸術文化の発信



第39回ABCお笑いグランプリ

2018年7月8日(日)放送

1980年にABC創立30周年を記念して放送された「ABC漫才・落語新人コンクール」を前身とし、2018年で通算39回目となった「ABCお笑いグランプリ」。歴代のグランプリ受賞者に「ダウンタウン」「ナインティナイン」「中川家」「ますだおかだ」「フットボールアワー」といった、今日のお笑い界を牽引する豪華な面々が名を連ねる。関西で活躍する若手芸人の登竜门的コンテストへと成長しました。



なお、1989年の第10回から2011年放送の第32回までは「ABCお笑い新人グランプリ」として開催。2012年の第33回大会より、名称を「ABCお笑いグランプリ」とし、出場資格も日本全国のプロのお笑い芸人に門戸を広げました。2019年はいよいよ第40回を迎え、これからも関西のお笑い文化発展に貢献し続けます。

上方落語をきく会

2018年2月10日(日)
会場:あましんアルカイックホール・オクト
司会:三代澤康司・伊藤史隆・桂紗綾 各アナウンサー



昭和30年(1955年)12月1日に旗揚げをしたABCラジオが主催する「上方落語をきく会」は通算117回目の公演となりました。

第一回の公演は、ABCラジオ開局より4年後のことでした。公開録音は、大阪・高麗橋にあった三越劇場で行いました。当時、上方の噺家はわずかに人ほどで、まさに風前の灯でしたが、この会を通して噺家さんと落語ファン、放送局とが力を合わせ、次々に熱のこもった高座を作り上げました。この会から松鶴、米朝、小文枝、春團治の「上方落語四天王」が台頭し、60年代後半には、仁鶴、枝雀、三枝、春蝶、小染といった人気者を輩出。その後も「1080分落語会」「しごきの会」「創作落語」など、落語ファンの語り草となる数々の企画を通して今日まで、幾度にも渡る上方落語ブームの火付け役になってきました。関西の文化を支える歴史ある取り組みです。

子どもたちの心を育む文化事業

ミュージカル 「ズボン船長」

2018年9月22日(土)～9月24日(月・祝)
6回公演
会場:梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ
主催:ABCテレビ・アークスインターナショナル



原作はあの「魔女の宅急便」の角野栄子さん。角野さんが大切にしている作品がプロジェクションマッピングを駆使した美しく幻想的で楽しいミュージカルになりました。一人の男の子が体験するひと夏の冒険を描いた舞台には大勢の子役たちが登場し、ダンスや歌を学んでいる子どもたちもたくさん会場に詰めかけました。

三代澤康司の ドッキリ!ハッキリ! クラシックです! 大人のための ～「ワルツ」入門～

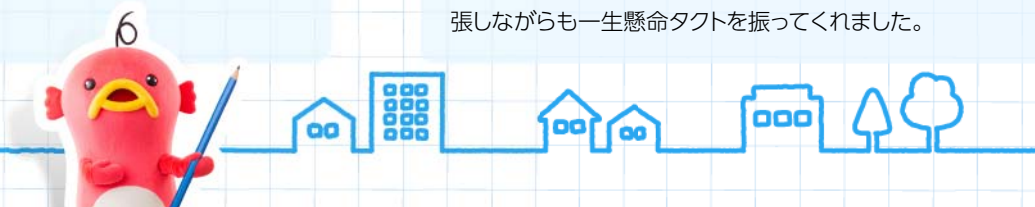
2018年10月20日(土)
会場:ザ・シンフォニーホール
主催:ABCテレビ

三代澤 康司アナウンサーと指揮者の寺岡 清高さんが、クラシックの秘密を“大人目線”で解き明かす新感覚コンサートで、2018年は15回目を迎えました。今回は、名曲を聴きながらワルツの世界を紐解きました。

道上洋三の春休みファミリー・コンサート

2019年3月24日(日)
会場:ザ・シンフォニーホール
主催:朝日友の会・ABCテレビ

ABCラジオ「おはようパーソナリティ 道上洋三です」のラジオから飛び出した道上さんの爽快なトークと、オーケストラの音色でお届けする春休みファミリー・コンサート。人気の指揮者体験コーナーでは来場者が「カルメン」の前奏曲に挑戦しました。参加した小学生の女の子は、緊張しながらも一生懸命タクトを振ってくれました。



3. 明日の文化へ...

「食」「音楽」「お祭り」...

多様な文化がたがなぐ私たちのこの地域をより豊かにしたい

地域住民や近隣企業、自治体等と協力し、イベントなどを通じて、地域文化の活性化と賑わい創出のための取り組みを進めます。

「ABCラジオまつり」「ABCラジオスプリングフェスタ」

朝日放送ラジオでは、リスナーのみなさんに感謝の気持ちを込めて、春と秋の年2回、お祭りイベントを万博記念公園で開催しています。生放送やライブステージのほか、物販・飲食ブース、体験コーナーなどが並び、盛りだくさんの内容のお祭りです。

11月18日(日)には「ABCラジオまつり2018」を開催しました。ABCラジオでおなじみのパーソナリティが大集合し、トークイベントで来場者に楽しんでいただきました。また別のステージでは音楽を中心としたライブを催したほか、臨時スタジオを設け、レギュラー番組の公開生放送も実施しました。



会場にはおよそ5万1400人のみなさんにご来場いただきました。

また「ABCラジオスプリングフェスタ2019」を3月10日(日)に開催しました。ステージでは、普段の放送では聴くことができないトークをパーソナリティが披露したほか、ワールドカップに合わせたラグビー体験イベントを開きました。スプリングフェスタには時折強く降る雨にもかかわらず、2万人を越す来場者があり、大人から子どもまで楽しんでいただきました。



ABCフード&スマイルフェス

「食」と「笑顔」をテーマに関西を盛り上げる番組連動イベント「ABCフード&スマイルフェス」がゴールデンウィークの2週間に渡って展開されました。4/23(月)～30日(月)にはABCテレビのレギュラー番組とコラボレーションした“食のスペシャルウィーク”企画を放送。4/28(土)には食に関する5時間を越える特別番組『千原ジュニアの 輝け! KANSAI美味いもんアワード2018』を生放送しました。

そして、4/28(土)～30(月)の3日間は、当社の本社屋で「ABCスマイルマルシェ」を開催し、初めて料理をする子どもたちにカレーづくりを教える「ABCファミリークッキング」や、食品サンプル体験のできる「エビシー・ワークショップ」など、多くのファミリー客が楽しみました。

また、4/28(土)～5/6(日)の9日間は、本社屋近くの中之島で食ベログ3.5以上のお店が多数出店する美食フェス「フードソニック2018 in 中之島」を開催。「ABCスマイルマルシェ」と「フードソニック」あわせて来場者数のべ16万人で賑わいました。



「福島バル」 「福島×福島 日本酒バル」



当社屋のある大阪・福島区の人気飲食店舗が多数参加して地域を盛り上げるバルイベント「福島バル」(主催:元気なお店創造委員会 協力:朝日放送グループホールディングス他)が、6月9日と11月17日に行われました。

「福島バル」は11月で15回目を迎え、当社は2017年6月開催の第12回より、このバルとの連携イベントを行っています。

当社玄関ロビーでは地元である福島区のライブハウスゆかりのアーティストによるライブ演奏や、バルのチケットに付いている抽選券で参加できる「エビシー抽選会」などでお客様を温かく出迎えました。番組グッズなどの当たる抽選会は大好評で、6月は約800人、11月は約970人が楽しみました。



また当社は、福島県の日本酒を大阪・福島区の飲食店で楽しんでもらう「福島×福島 日本酒バル」(9月15日開催)に参加し、福島県の日本酒と観光のPRを応援しました。この日本酒バルは、日本有数の酒処福島県の日本酒を、グルメの街として知られる大阪・福島区で紹介したいと福島県が主催したもので、福島県内の35の蔵元と福島区の居酒屋など35店舗がそれぞれタグを組みました。

当社の玄関ロビーでは、福島県から駆けつけた蔵元自ら日本酒を振る舞ったり、福島県の復興の様子を写したパネル展示を行いました。また、福島復興シンボルキャラクター「キビタン」も登場し、ABCの「エビシー」と共にイベントを盛り上げました。延べ5,000人のバル参加者が福島県の日本酒と大阪・福島区のカフェを堪能し、福島県の復興の様子に関心を寄せていました。

当社はこれからも地域に根差した活動をしていきます。

京都タワー「VRバンジー」

2018年10月5日(金)~12月24日(月・祝)
会場:京都タワー展望室 主催:ABCテレビ・京阪ホテルズ&リゾート株式会社

ABCグループの技術を駆使したリアルなVR映像で、まるで京都タワーからバンジージャンプをしているかのような体験を!

京阪ホテルズ&リゾート株式会社との共同主催で実現したこの催しに、観光客や修学旅行生、外国人旅行者らが大勢訪れ、京都タワーの来塔者数アップに貢献しました。

当社グループは、自身の技術力で地元関西文化を盛り上げる新感覚の観光サービスの提供を今後も目指します。

なお、本イベントは観光庁「最先端観光コンテンツインキュベーター事業」としても紹介されています。



「中之島まるごとフェスティバル」(東日本大震災復興支援イベント)

本社のある大阪・中之島エリアで、2018年10月20日(土)～10月28日(日)に開催された「中之島まるごとフェスティバル(主催:中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会)」は、2014年からスタートした東日本大震災の被災地復興支援イベントで、2018年で5回目を迎えました。

その一環として、当社は本社玄関ロビーで「ABC with Shion ～木管五重奏と楽器に触れる時間～」と題したチャリティコンサートを10月21日(日)に開催しました。出演はオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラで、当社の武田和歌子アナウンサーが司会を務めました。会場では被災地に音楽を通じた文化復興活動支援を行うための募金を行う傍ら、演奏家の皆さんが来場者に実際に楽器の鳴らし方を教える「楽器体験コーナー」が設けられ、大人も子どもも



楽しめる内容となりました。「中之島まるごとフェスティバル」全体で、企業団体からの寄付を含め、総額487,353円が集まりました。この寄付金は、岩手県南部の海沿いのまち大船渡市の高校の吹奏楽部へ、シオンの演奏家の皆さんが出向き、生徒への演奏指導やミニコンサートを開催する為の活動資金として活用されました。

中之島なつまつり2018

当社は、地元大阪・中之島エリアで働く人達と、そこにお住まいの方々との新しいコミュニケーション創造を目的として、2013年から大阪国際会議場(グランキューブ大阪)及び中之島バンクスで「中之島なつまつり」を、中之島を拠点とする6つの企業・団体と共同で主催しています。

今回は6年目で、2018年8月27日(月)に開催し、小寺右子アナウンサーと佐藤修平アナウンサーが司会を務めました。来場者は7500名。地元名店のグルメや、河内家菊水丸の伝承河内音頭などが、都会の祭りを盛り上げました。

中之島ウエスト・冬ものがたり2018

本社近隣(中之島西エリア)の活性化とイメージアップにより、地域価値の向上に資することを目指すイベント「中之島ウエスト 冬ものがたり(主催:中之島ウエストエリア・プロモーション連絡会)」にも参加しています。



中之島ウエスト
冬ものがたり2018

このイベントは2012年冬にスタートし、2018年度のメインプログラムは12月13日～25日の13日間、社屋前の福島港(ほたるまち港)を中心に行われました。ほたるまち港一帯の樹木には「ひかりの実」(光る小オブジェに笑顔が描かれ街路樹などに飾りつけられるスマイルアート)がほのかに灯りました。今回も、秋のABCラジオまつりに来場した子供たち約400名が、思い思いの「スマイル」を描いた作品が展示されました。また、社屋南側正面の堂島川では、「中之島ウォーターファンタジア」(大噴水ライトアップ)が行われました。

当社は、堂島川に面した当社リバーデッキで、オリジナル企画「エビシー・きらきら・クリスマス」を実施。内容は、社屋の壁に投影され登場する巨大なエビシーとじゃんけん対決ができる体験型ゲームで、参加した子どもたちはカメラに向かって「グー・チョキ・パー」を掲げ、真剣勝負を楽しみました。水辺のまち中之島の冬を彩るイベントとして、地域の盛り上げに貢献しました。



感謝の気持ちを伝えたい

サンキュー
「おはよう朝日です」39周年
『あなたの町を盛り上げ隊』エピソードが
聞くシー！

その3

「おはよう朝日です」

つなみ ゆういち
津浪 祐一 プロデューサー

に聞いたシ。



「おはよう朝日です」

毎週月曜～金曜 6時45分～8時 放送

関西に「朝の元気」をお届けする情報ワイド番組。関西のグルメ情報から最新トレンド、日々の生活に役立つ情報をお届けしています。

番組の歴史は古く、放送開始は1979年4月。39周年を迎えた2018年は、日ごろテレビをご覧の皆さんに感謝をこめて「おは朝サンキュープロジェクト～あなたの町を盛り上げ隊」を企画。視聴者より地元を盛り上げるお手伝いをしてほしい人を募集し、番組司会の岩本計介アナ、アシスタントの川添佳穂アナほか番組メンバーが駆けつけて町を応援しました。

『あなたの町を盛り上げ隊』は
スタッフ達から自然に出てきました

おは朝39周年で「サンキュー」、視聴者へ感謝の気持ちを伝えたいと番組スタッフから企画を募集したところ、関西の地域密着番組として「町おこし」のお手伝いしたいという声が多数上がりました。作り物の企画ではなく、視聴者の方から本当に「こんな手伝いをして欲しい」という依頼をもらい、毎回数時間に渡る長い会議を繰り返して、どのようにすればもっと町を盛り上げることができるのか真剣に議論しながら進めていきました。

初回の放送は、火事で全焼した神戸電鉄「三木駅」の再生に協力するという内容。目標額100万円の募金を集める為に、金物の町・三木らしさを活かした番組



特製キーホルダーを岩本アナが手づくりしたり、川添アナが告知ポスターをデザインするなどしてイベントを手伝いました。当日は暑い日でしたが長い行列が出来て大盛況となりました。その他にも、和歌山県上富田町の主婦の皆さん「山桃会・婦人部」とコラボし、地元の新名物に育てたい「熊野やまももしろっぴ」を使ったやまももジュースのPRをしたり、8月に台風被害を受けた和歌山・川湯温泉が、河原の大露天風呂「仙人風呂」について“今年

は台風被害が甚大だったため開催が危ぶまれているが、復興のシンボルとしてぜひ開催したいのでその手伝いをして欲しい”というので、開湯日にはおは朝メンバーも駆けつけて一緒に盛り上げました。どの町で出会った皆さんも、「おは朝」を大変身近に感じて下さっていることを有り難く思いました。

39th
Anniversary地元密着番組として、
誠実に伝えることをしたい

番組づくりで意識しているのは、「元気に明るく、誠実に」。「誠実に」というのは、見ている人にとって“かゆいところに手が届く”ということでもあります。例えば朝に番組で紹介したお店がその日定休日だったら、「せっかく行って見たのに」となりますよね。そのような情報は重ねてお伝えするようにしています。旅行のツアー内容や料理のレシピ紹介などもできるだけ丁寧に、真面目に。番組スタッフ、出演者一人一人にその意識が浸透していると感じます。自分達も関西に住むひとりの生活者ですから、常にその目線で考えています。

次は40周年。番組の基本的な精神を大切に、これからも地元関西でがんばる様々な人達、困難に立ち向かい挑戦する人達を応援していくようなチャレンジを、「おは朝」としてもやっていきたいと考えています。



「TABLE FOR TWO」 参加スタート

「TABLE FOR TWO」とは、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む日本発の社会貢献運動で、特定非営利活動法人「TABLE FOR TWO International」がプログラム運営を行っています。各企業等は、そのプログラムに参加する形をとり貢献活動を行っており、当社は2月7日(木)より、本社内の食堂にてこの取り組みへの参加を開始しました。



具体的には、食堂でヘルシーメニューを注文すると、代金の一部(1食につき20円)が寄付金となり、TABLE FOR TWO を通い開発途上国の子どもの学校給食になるという取り組みです。20円は開発途上国の給食1食分の金額で、先進国の参加者が

食事1回を摂る度に、開発途上国に1食が贈られるという仕組みです。当社の食堂では今後も毎週木曜日にこの活動を実施し、貢献を続けていきます。

あなたがヘルシーランチ1回食べることで、誰かが給食1回食べられるという世界の新しいしくみ。

同じ地球上に、気えに歪む人と食べ過ぎて不健康になっている人がいます。この相反する問題を同時に解決しようと考えたのがTABLE FOR TWOです。当プログラムのヘルシーメニュー1食につき20円が、開発途上国の給食1食分として寄付されます。羽を越えて二人で食べよう。



字幕・解説放送

当社は、耳の不自由な方や高齢者の皆様に、テレビ番組をより楽しんでいただけるよう字幕放送を実施しています。字幕放送とは、出演者のトークやセリフ、ナレーションを文字や記号にして、画面にわかりやすく表示するものです。現在、午前7時から午後12時までのバラエティやドラマ、アニメには、すべて字幕が付与されています。ニュースやスポーツ中継などといった生放送番組でも、リアルタイムに字幕放送を実施しています。さらに2018年度からは耳の不自由な方を対象に手話放送の取り組みもスタートしました。また、目の不自由な方にもテレビ番組を楽しんでいただけるよう、バラエティやドラマなどで解説放送を実施しています。解説放送とは、ナレーターが情景描写や出演者の表情など番組内容をわかりやすく説明して、副音声でお届けするものです。今後も字幕放送や解説放送、手話放送の拡充を通じて、情報アクセシビリティの向上に努めてまいります。



ピンクリボン スマイルウオーク神戸



「ピンクリボン」とは、乳がん啓発活動を表す世界共通のシンボルです。当社は、2004年より、「ピンクリボン スマイルウオーク神戸大会」

(主催：日本対がん協会、朝日新聞社、ABCテレビ、神戸新聞社 ※神戸新聞は2011年から)の開催をお手伝いしています。2018年度はスマイルウオーク神戸15周年を迎え、10月8日(月・祝)に兵庫県神戸市のスペースシアターで開催しました。10キロ、5キロ、3キロのコースに、2096名が参加。ステージイベントでは専門医とゲストによる啓発トークを行いました。

また、検診車で乳がん検診(要事前申込・抽選制)や、自治体での検診情報の提供、賛同する協賛各社、乳がん患者団体によるブース出展などさまざまな催しを開催しました。

イベントを通じて、乳がんのことを理解し、命の大切さを共感し、検診への一歩を踏み出してもらえるよう、これからも応援を続けます。



写真提供：日本対がん協会

エビシーの防災活動

3月2日(土)に「福島区防災フェスタ 知る体験あそぶDAY」が開催されました。これは、福島区役所と福島消防署が主催するもので、地域の皆さんや子ども達に、楽しみながら防災意識を高めてもらうと実施されています。

福島区の放送局を代表して、福井治人アナウンサーとエビシーと一緒に参加しました。福井アナは今回、司会者ではなくゲストとして登場。起震車で震度7の状態を体験したり、水消火器の使用方法を学んだり、防災への知識を深めました。

その他、消防隊員の皆さんによる救助訓練、放水訓練の見学、そして今年の新企画である、消防ホースボウリングにも参加した福井アナは「普段体験できない事が出来ました。煙体験は本当ににも見えなくて怖かった。また、イベントに参加している子ども達の喜ぶ姿に元気をもらいました。」と話しました。「エリア防災」の意識が高まっています。近隣地域の皆さんとの「防災」を通じての繋がりを今後も大切にしていきたいと考えています。



ABCグループ会社紹介

CS放送事業



(株)スカイ・エー

「スポーツ専門チャンネルとして、若手アスリートの支援やマイナースポーツの発展に寄与し、様々なスポーツ文化の保護・発展につなげていきたい」

デジタルコンテンツ制作、字幕制作



(株)デジアサ

「災害発生時の緊急対応を迅速に行いたい」
「字幕対応や、データ放送のエリア限定強制表示等により、視聴者に災害緊急情報を確実に届けたい」

制作技術、ポストプロダクション



(株)アイネックス

「“働く人”を大切にすることを大切に行いたい」
「報道現場業務に携わるものとして、災害時の緊急対応では迅速に行動したい。視聴者の安全を守る呼びかけを継続して行っていきたい」

海外でのビジネス調査、新規事業開発及びビジネスサポート

ABC HORIZON

ABC HORIZON PTE.LTD. (本社:シンガポール)

「ABCグループ海外ビジネスの東南アジア前線基地になりたい」
「ABCや日本文化を東南アジアに発信するグループのフロントラインでありたい」

ABCグループ各社の

「...〇〇したい！」



ABCテレビ・ABCラジオ以外の
グループ各社をご紹介します

通信販売業務、ラジオ番組制作、
音楽出版



(株)エー・ビー・シーメディアコム

「ABCラジオを通して 地域の暮らしと文化に
寄り添いたい」
「通販事業を通して より便利で豊かな暮らし
を提案したい」

コーポレート・ベンチャー・
キャピタルの運営



ABCドリームベンチャーズ(株)

「ABCグループの事業シナジーを求めたい」
「新規事業の創出を通して今後起業する
若者の支援を行いたい」

TV番組企画・制作、映像の保存・管理



(株)エー・ビー・シーリブラ

「モノづくりの工場であり続けたい」
「『おはようコールABC』『おはよう朝日
土曜日です』『LIFE～夢のカタチ』『朝だ!
生です旅サラダ』等の番組制作で地域
振興のお役に立ちたい」

警備保安業務、施設管理業務

ABC興産

(株)エー・ビー・シー興産

「お客様とのファーストコンタクトを担い
グループの“顔”として、大切な”地域の
皆様”と良いお付き合いをしていきたい」

総合住宅展示場運営、HDC運営、保険代理店業、広告代理店業



エー・ビー・シー開発(株)

「安心・安全・快適」な暮らしを提案し、社会の発展に寄与し
ていきたい」
「企業市民として事業活動を超えた社会的な
責任を果たし、企業価値をより高めるために地球環境保全
や社会貢献活動にも取り組んでいきたい」

ゴルフ場運営



(株)ABCゴルフ倶楽部

「地域社会に健康増進と交流の場を提供し、活性化に貢献して
いきたい」
「所属プロの小中高校生対象定期レッスンや、
JGAジュニア会員対象の夏休み限定コース開放など、ジュ
ニアゴルフ育成に協力し子どもたちへの支援を続けて
いきたい」

(株)ABCアニメーション、(株)ABCインターナショナル、
(株)ABCライツビジネスの経営管理、ライツ管理、新規事業開発

ABC FRONTIER

(株)ABCフロンティアホールディングス

「Our Frontier Spirits『自由』『創造』『責任』(…経営理念より)
新たなコンテンツを生み出し、喜びとワクワク感を伝えたい」
「日本国内の魅力を外に発信し、より多くの人に日本に
興味をもってもらうのと同時に、地域の創生と活性化に寄与
したい」



SDGsと朝日放送グループについて

近年、注目されているSDGs (Sustainable Development Goals、エス・ディー・ジーズ)とは、2015年に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、日本を含む193加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発目標」のことです。

貧困問題、環境・衛生問題、人権問題、気候変動問題、教育問題など、世界中が抱える社会問題を17の目標と169のターゲット(詳細な目標)に整理したもので、2030年までに達成することを目指したビジョンや課題が掲げられています。

SDGsのテーマは「誰一人取り残さない」("Leave no one behind")で、先進国も途上国も、国も地域も関係なく世界中の一人ひとりに関わるグローバルレベルの取り組みです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

朝日放送グループは、メディアを中心とした企業として、世界規模での多様な社会課題の解決にも少しでも貢献したいと考え、放送コンテンツなどを通じて、SDGsの存在やその内容を社会に広く紹介していきます。

そして、私たちも、自身のCSR活動を深めるために、SDGsの17目標に対して私たちが更に貢献できることを考え、取り組みを進めていきます。

今後は、私たちのCSRについての考え方や取り組みを、この世界規模の新しい「ものさし」と相照らしながら、私たちが今「僅かでも何が出来ているのか」「何が出来ていないのか」「更に出来ることは何なのか」等の整理確認を行い、各取り組みにも反映して参ります。



CSR活動報告2018

対象期間：2018年4月～2019年3月
発行年月：2019年5月
会社情報サイト：<http://corp.asahi.co.jp/>

